

小論文

北里大学医学部 2024 年度型 そっくり類題 3 日分

※ これは北里大学の入試問題ではありません。
2024 年度の出題形式（課題文＋問一～問三・90 分）をもとに、
TMPS 医学館が題材と本文を新しく作成したオリジナル問題です。

試験時間の目安：1 日分につき 90 分

- ・ 類題①（2/3 型）・類題②（2/4 型）・類題③（2/5 型）の 3 題です。1 題ずつ、90 分で解いてください。
- ・ 問一・問二は短い原稿用紙、問三は 20 字×行の原稿用紙（700 字・800 字・900 字）に、横書きで解答してください。
- ・ 句読点や「」も 1 字として数え、制限を超えないようにしてください。段落の最初は 1 マスあけます。
- ・ 類題①の問二は、理由を 3 つ、①②③に分けて書いてください。
- ・ 実際の解答用紙の形式は大学の発表を確認してください。この冊子の原稿用紙は TMPS の練習用です。
- ・ 解答例と解説は、解説ページ（TMPS 医学館の過去問解説図書館）に掲載しています。

類題① 2/3 型（自転車とヘルメット）

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

自転車に乗るときにヘルメットをかぶるかどうかは、長く個人の判断に任されてきた。頭を守る効果があることは広く知られているが、かぶらない人は今も少なくない。そこで、ヘルメットの着用を法律で義務づけるべきだという意見が出ている。

これに対して、義務化に反対する人は、次のように言う。自分の頭を守るかどうかは本人が決めることで、国が口を出すのは行き過ぎである。ヘルメットは暑く、髪型も崩れる。短い距離の移動のたびに義務づけるのは、生活の実情に合わない。

しかし、事故で頭を強く打てば、本人だけでなく、家族や医療を支える社会全体の負担も大きくなる。着用の効果や事故の実態を十分に知らされないまま「自己責任」とされるのは、公平ではない。もっとも、義務にして罰則を設けても、すべての人に守らせることは難しい。着用を勧める情報の出し方や、着用しやすい環境づくりなど、強さの異なる対策を組み合わせる方法を考える必要がある。

問一 本文の内容を要約したタイトルを15字以内でつけなさい。

問二 本文に書かれている、ヘルメットの着用を義務づけるべきでない、あるいは義務づけにくい理由を3つ書きなさい。

問三 本文を参考にしたうえで、あなたは自転車のヘルメットの扱いをどのようにすべきだと思うか、医師を目指す者として自分の考えを700字以内で述べなさい。

問一 解答用紙（15 字以内）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問二 解答用紙（理由を 3 つ。①②③に分けて書く・20 字 × 6 行）

設計図メモ（問三を書く前の整理に使ってください。提出しません）

立場（結論）：
柱①：
柱②（反対意見・留保）：
医療者として：

100字ごとに右に目印があります

This image shows a full page of graph paper. It features a uniform grid of small squares. On the right side, there is a vertical axis with numerical labels at intervals of 100, starting from 100 at the top and ending at 700 at the bottom. The rest of the page is covered by the grid without additional markings or text.

類題② 2/4 型（基準値と一人ひとりの暮らし）

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

健康診断の結果には、検査の数値ごとに「基準値」が示される。基準値は、大勢の人の数値をもとに、統計の考え方で定められている。基準値から外れると、再検査や生活の見直しが勧められ、数値が基準値の内側に入ることが、一つの目標になる。

私の祖母は、検査の数値が基準値より少し高いことを指摘され、毎日の食事や散歩の時間を、数値を下げるために細かく見直すようになった。数値は確かに下がったが、祖母は以前のように台所に立つことを楽しめなくなってしまった。

基準値は、多くの人にとって役立つ目安である。だが、目安は「平均的な誰か」のものであり、祖母のように、孫に料理を作ることを生きがいにしてきた一人の暮らしを、そのまま映すものではない。数値は暮らしの一部を切り取る道具であり、暮らしの全体を語るものではないのだ。

問一 この文章に20字以内でタイトルをつけなさい。

問二 傍線部「数値は確かに下がったが、祖母は以前のように台所に立つことを楽しめなくなってしまった」とは実際にどのようなことか。文中の言葉を用いて、120字以内で説明しなさい。

問三 数値の基準に基づく医療が広がっている中で、医師は数値の他にどのようなことに気を付けて患者の診療にあたるべきか。本文の内容もふまえ、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

問一 解答用紙（20 字以内）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問二 解答用紙（120 字以内・20 字×6 行）

設計図メモ（問三を書く前の整理に使ってください。提出しません）

立場（結論）：
柱①：
柱②（反対意見・留保）：
医療者として：

100字ごとに右に目印があります

This image shows a full page of graph paper. It features a uniform grid of small squares. On the right side, there is a vertical axis with numerical labels at intervals of 100, starting from 100 at the top and ending at 800 at the bottom. The labels are 100, 200, 300, 400, 500, 600, 700, and 800. The rest of the page is covered by the grid without additional markings or text.

類題③ 2/5 型（救えなかった夜のあとで）

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私が研修医になって半年ほどたった冬の夜、救急外来に運ばれてきた高齢の男性を、私たちは救うことができなかった。初めて自分の担当した患者が亡くなったことに動揺した私は、廊下に立ち尽くしていた。

そこへ、当直の先輩の医師が来て、静かにこう言った。「君は何もできなかったと思っているだろう。でも、あの方の奥さんは、最後まで手を握っていた。その横で、状況を説明し、座る場所を用意し、お茶を勧める人が必要だったんだ。それも、私たちの仕事だよ」

私はそれまで、医師の仕事は、病気を治して命を救うことだと信じていた。先輩の言葉は、救えない場面でも医師の役割があることを、初めて私に教えてくれた。あの夜から十年以上たった今も、私はこの言葉を忘れたことがない。

問一 この文章の内容を表すタイトルを文字数 20 文字以内でつけなさい。

問二 傍線部の先輩の言葉は、なぜ著者の心に強く記憶されたのか、80 字以内で述べなさい。

問三 本文全体の文意を踏まえて、医療でも救えない場面で、医師として、あるいは家族として何ができ何が求められるのか、あなたの考えを 900 字以内で述べなさい。

問一 解答用紙（20 字以内）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問二 解答用紙（80 字以内・20 字 × 4 行）

設計図メモ（問三を書く前の整理に使ってください。提出しません）

立場（結論）：
柱①：
柱②（反対意見・留保）：
医療者として：

100字ごとに右に目印があります

This image shows a full page of graph paper. It features a uniform grid of small squares. On the right side, there is a vertical axis with numerical labels starting at 100 near the top and increasing by 100 up to 900 near the bottom. The rest of the page is covered by the grid without any other markings or text.